

岩崎 智幸 Tomoyuki Iwasaki

大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校 非常勤講師

フォトグラファー・Nikon プロサービス NPS メンバー

歯科技工士

大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校 週末コース 14 期卒業

PHOTOLOGIC 代表

Studio IMO 所長



歯科医師の指示のもと、審美性を考慮して失われた歯牙の一部または全部の形態および機能を回復するための装置を製作するのが歯科技工士だが審美領域における修復の際、作業用模型による模型診断だけでは十分な情報は得られない。色の情報が必要である。歯科技工士が補綴装置を製作する患者の口腔内を必ずしも見ることができるとは限らない。その場合、歯牙の色の情報を歯科医師から受け取る為には写真が必要である。また製作過程や補綴物を口腔内に装着した状態での口腔内の状況を記録、伝達する手段としても、写真は非常に有効な手段である。ではその写真は口腔内をどこまで忠実に記録するのか、さらにはどのような環境光下で記録すべきなのか、それらについて基準を持つことが重要である。また写真を撮影する為にはカメラ本体、レンズおよびストロボなどの機材が必要となるが、それらの組み合わせと調整で、撮れる写真が決まる。環境光の再現に必要な組み合わせと調整は求める環境光により異なる。写真による忠実再現の理を再認し、歯科領域をも超えた人生を豊かにする写真の可能性を技工士として周知したい。